

# ミニトマト管理情報(定植後の栽培管理について)

令和3年5月

JAおおぞらミニトマト部会協議会

石川県奥能登農林総合事務所

## 1 ハウス周りの排水溝を再確認

- ① 梅雨に入る前に、ハウス周りの排水溝を掘り直し、排水溝に雨水が溜まらないようにする。
- ② ハウス内への雨水の侵入防止に、ハウス側面から排水溝にかけマルチなどを敷く。【右の写真参照】
- ③ 排水口の泥や落ち葉を取り除く。



## 2 温度計と遮光ネットの確認

- ① ハウス内の温度を確認するため、ハウス内の中央の見やすい位置に最高温度と最低温度がわかる温度計を設置またはヒモで吊るす。

【ミニトマトの生育適温は20～25℃。熱中症にならないためにも温度を確認する】

- ② 古い温度計は、水銀が途切れている場合があるので、正常か確認する。
- ③ 梅雨明け前の7月上旬から、ハウス上部に遮光ネット(遮光率30～35%)が掛けられるように、早めにJA各支店に発注するなど、準備しておく。
- ④ 気温上昇に伴い、夜間の外気温が12℃以上に安定したら、夜間もサイド(側窓)を開けて換気する。

【風雨の強い日はハウスを閉め切り、風が弱まったら病気の発生を防ぐため、すぐにサイドを開ける】

## 3 かん水

- ① 活着～3段花房開花期までは、しおれない程度とする。
- ② 晴天時の午前中にかん水する。裂果を防ぐため、収穫直後(午前中)に行う。
- ③ 雨天時や曇天時は、病気の発生を防ぐため、茎葉のしおれが大きい場合のみ、かん水する。

## 4 トマトーン

- ① 着果、果実肥大促進のため、1花房に5花程度開花した頃を目安にトマトーンを処理する【2度がけはしない】。トマトーンは朝夕に行い、暑い時間帯を避ける。
- ② 若葉や先端部にトマトーンがかかると縮れるので、花だけ処理する。

### 【ホルモン処理濃度の目安】

15℃以下	100倍	10日間隔
16～20℃	150倍	7～10日間隔

21℃以上	200倍	5～7日間隔
-------	------	--------

③ 高温(35℃前後)による着果不良が予想される場合は、トマトーンの濃度を200倍とし、処理間隔を3～4日に短縮して着果促進に努める。



見本

## 5 下葉かきなど

- ① 古くなった下葉は、収穫が終了した果房の下まで順次取り去り、通気性を良くする。一度に多くの枚数をかき取らず、1回に数枚/株程度とする。わき芽や下葉は病気の発生を防ぐため晴天日の午前中に取り除く。
- ② 収穫、下葉かきが終わり次第、順次つる下げを行う。主枝先端部(先端より60～90cm)の誘引角度は45度以上にする。あまり横にしない。つるの折れを防ぐため、晴天日の午後に行う。
- ③ 草勢が弱い場合は、わき芽除去を控える。また、わき芽を1葉残して摘除することで葉数(葉面積)、生長点を確保し、草勢を調節することができる。  
【残したわき芽の葉から発生する枝は、しばらく伸ばし主枝先端より高くなる前に取り去る】
- ④ 着果数が多すぎると、梅雨明け後の草勢や着果不良の原因となる(特に4～6段花房)ので、1果房あたり20～30果を目安に摘蕾する。

**草勢の適正值** ※指標の開花花房とは、4～5花開花した花房を指す

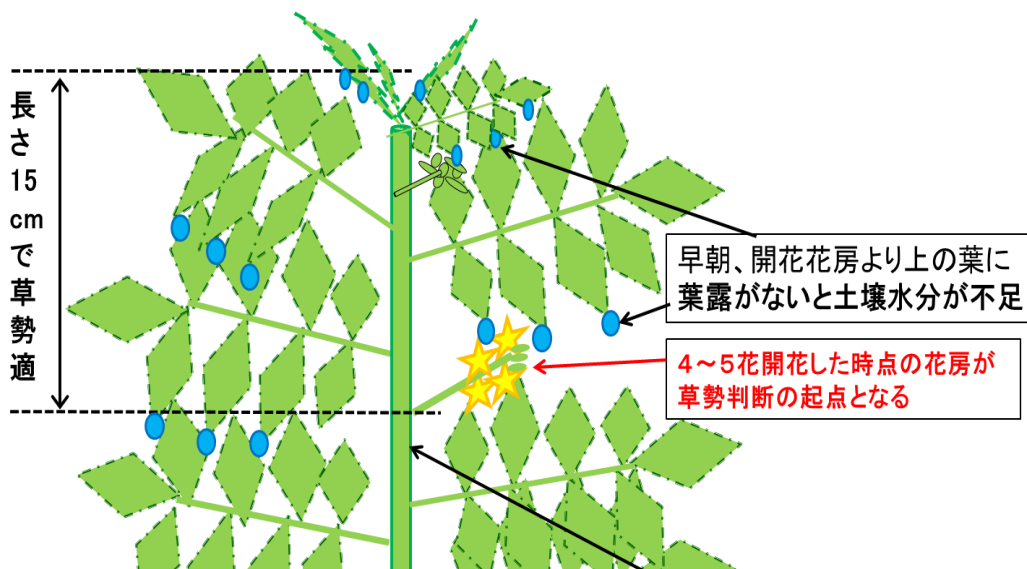
草勢の指標	適正值(管理目標)
開花花房から主枝先端までの長さ	15cm以上
開花花房すぐ下の主枝直径(径の細い側)	10mm



※ 右の株だと草勢がかなり弱い！

(タバコの太さ約8mm、長さ約8.5cm)

## ミニトマトの草勢および土壌水分の簡易判断



## 6 追肥

- ① 追肥は、草勢を見て、少量ずつ施用する。【いっぺんに追肥しない】
- ② 3段花房開花以降、過繁茂の心配がなければ、遅れずに追肥を開始する。  
液肥 10号：各段開花始めに 1回 1～1.5 kg/a (200倍以上)  
有機エイト：奇数段開花始めに 1回 3 kg/a ※1a = 100㎡  
※即効性を求めるなら、液肥（液肥10号）400～500倍の葉面散布を追加する

## 7 芯止まり・葉先枯れ対策

- ① 芯止まり防止のため、誘引の際は主枝先端の角度を45度以上に保つ。
- ② 適切なかん水管理に努めるとともに、3～4段花房開花頃から週に1回程度、カルシウム資材の葉面散布(カルハード500～1,000倍等)を行う。散布の範囲は主枝先端部から30～40cm程度とする。

## 8 病害虫の発生防除

- ① 着果数が増えると、成り疲れの株が見られるので、適期適切な栽培管理を心掛け、収穫果の階級低下や病害虫を予防する。
- ② 雨天が続くと灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなるので、晴れ間を見て、7日～10日間隔で農薬を散布する。同一剤の連用を避ける。
- ③ 農薬を使用する際、袋やビンに記載されている使用方法、回数を必ず守る。
- ④ 今年度新しく登録された農薬について、分からないことがあれば奥能登農林総合事務所まで連絡する(連絡先は下に記載)。

### 〈青枯病抵抗性品種苗の紹介〉

奥能登管内では年々青枯病の被害が増加しています。そこで、青枯病に抵抗性のある台木を使用した苗の試験をおこなっています。青枯病が毎年発生している方に、試験的に苗の導入をご案内します(穂木は全てプレミアムルビー)。

台木の種類

- ① B バリア
- ② キングバリア

注意事項

- ① 3型苗のため、5/25前後にお渡しします。
- ② 5本単位でお配りします。先着順で、なくなり次第終了とさせていただきます。
- ③ 生育状況確認のため、ハウスを見学させていただくことがあります。

連絡先：

JAおおぞら 0768-52-3813

石川県奥能登農林総合事務所 0768-26-2323